

6月30日,18時より,「さくら」にて,懇親会を開催した。当日は留学生24名,教職員やチューターなど21名以上の参加を得て,お国のダンスや歌などで,盛り上がり,親睦を深めることができた。

(3) 留学生研修旅行

昨年度まで,予算枠の問題などで難しかったバス旅行が可能となったため,留学生全員を対象にした日帰り旅行を計画した。12月18日,岡山県への旅行は,留学生12名の参加を得て,関谷学校見学,備前焼体験などに学生達は大変興味を示し,また楽しんだようであった。

(4) 来年度の派遣留学生の募集関連の活動

10月8日に「留学説明会」を開き,交換留学制度を有している5大学の紹介,留学先での生活や応募手続きについて説明を行った。当日は,オース大学と北京師範大学に留学経験のある学生が体験談を披露したり,後輩達の質問に答えたりしてくれた。25日に願書を締め切り,11月1日に面接を行った。今年度は,オース大学ばかり5名の応募があり,面接後開いた部会で選考した結果,5名全員の推薦を決めた。釜山大学へは,締め切りを過ぎてから1名の応募があった。部会で協議し,協定締結後すぐの留学説明会だったため,情報が行き渡っていなかった可能性を考慮して今回は特例として応募を認め,推薦することを決めた。

(5) 来年度の受入れ留学生

現在までのところ,北京師範大学から来年度の留学希望学生1名の願書が届いていて,部会では既に受入れを決めている。

(6) 教員研修留学生の研究発表会

留学生専門部会開催の教員研修留学生(韓国から2名,フィリピンから1名)の研究発表会は,今年は2月22日の10時半より行われた(懇親会は同日12時から)。

4. おわりに

昨年度に比べ,今年度は問題が少なく,ほぼ予定どおりの活動状況であった。法人化の影響も,未だ殆ど出ていない。しかし,来年度からは非常勤講師枠縮小に伴う教員研修留学生の授業時間の短縮が予定されている。今年度特筆すべきは新たな協定校ができたことであるが,今後ますます交流の輪を広げることが期待されている。

(留学生専門部会部会長 川木冴子)

3.5. 情報公開・広報・就職

3-5-1. 電子情報専門委員会

電子情報専門委員会の業務は,主に学部公式ウェブサイトの運営及び発達科学部のメールの問合せ先に送られてきた問合せ・依頼メールへの対応である。電子情報専門委員会は委員長,3学科長及び教務補佐員で構成されているが,日常的な運営は委員長と教務補佐員が相談の上行った。以下それぞれの業務ごとに本年度の活動を報告する。

1. ウェブサイトの運営

発達科学部公式ウェブサイト <http://www.h.kobe-u.ac.jp/> で提供されている情報は,以下のよう
に分類される。

- ・ 一般向けの情報(学部情報,学生募集等に関する情報)
- ・ 発達科学部の学術活動に関する情報(シンポジウム,講演会等に関する情報)
- ・ 在学生・教職員向けの情報(教務情報,就職に関する情報等)

・ よくある質問

それぞれについて今年度のコンテンツ掲載・更新状況を報告する。

(1) 一般向けの情報

一般向けの情報で、今年度新たに情報を掲載した主なものは以下のとおりである。

- ・ 2005 年度版の発達科学部パンフレット
- ・ 発達科学部便り
- ・ 神戸大学発達科学部 10 年の歩み・卒業生及び就職先アンケートより・
- ・ 学部周辺地図

平成 17 年度からの学部改組に伴い新たなパンフレットが作成されたが、それをもとにウェブでも同様の内容のページを作成した。『発達科学部便り』もウェブで公開することが決定し、現在 12～16 号を掲載している。残りの号についても順次公開する予定である。『神戸大学発達科学部 10 年の歩み・卒業生および就職先アンケートより・』は神戸大学発達科学部卒業生動向調査委員会により平成 16 年 7 月に発行されたが、この PDF ファイルを学部サイトでも公開した。発達科学部周辺の地図は (株)サイバーマップ・ジャパンの有料のマピオン Light サービスを利用して、マピオンの地図へのリンクを学部ページに掲載した。既存のコンテンツに関しては、内容の変更に応じて随時更新を行った。

(2) 発達科学部の学術活動に関する情報

学術活動に関する情報については、教授会や教員メーリングリストにおいて、開催される研究集会・講演会等の情報提供を呼びかけた。この結果、前年度と比較して発達科学部内で開催される研究集会・講演会等の情報は大幅に掲載されるようになった。

(3) 在学生・教職員向けの情報

在学生向けの情報では、特に教務・学生関係の情報の掲載・更新を速やかに行うことを目指した。シラバス関係のコンテンツは教務委員会、就職関係のコンテンツは就職・広報専門委員会が準備したが、両委員会の努力により充実した内容になった。教職員向けの情報では、コンピュータ・ネットワーク関係のコンテンツの充実を図った。今後上記委員会にとどまらず、他の委員会から在学生・教職員向けに出されるお知らせも紙媒体だけでなく、Web で公開することが課題となる。

(4) よくある質問

発達科学部のメールの問合せ窓口には、2 で述べるように様々な問い合わせがある。中には何度も繰り返し質問される事項がある。そのような質問者に前もって情報を提供するために『よくある質問』のコーナーを作成した。今後このコンテンツの充実を図ることで、学外者だけでなく在学生にも利便性の高いサイト構築を目指して行く。

2. メーリングリスト info@h.kobe-u.ac.jp の運営

info@h.kobe-u.ac.jp は、発達科学部のメールの問合せ窓口となるメーリングリストである。現在このメーリングリストには、電子情報専門委員会委員のほかにも新学科世話人及び附属 3 校舎の連絡責任者が登録されている。info@h.kobe-u.ac.jp 宛に送られてきたメールは、委員長がそのメールの内容を判断して回答を依頼する部署に転送を行う。回答を依頼された部署は、原則 3 日から 1 週間以内に質問先に回答する体制をとっている。本年度の問合せ件数は平成 17 年 3 月 4 日現在 82 件で、メールの転送依頼を含めるとおよそ 100 件の問い合わせ・依頼が info@h.kobe-u.ac.jp 宛に寄せられた。問い合わせ内容を大きく分けると以下のように分類される。

- ・ 学科の内容・カリキュラムに関するもの（13件）
- ・ 入試に関するもの（18件）
- ・ 教員免許・資格に関するもの（15件）
- ・ 教務事項に関するもの（6件）
- ・ 総合人間科学研究科に関するもの（7件）
- ・ その他（23件）

新学科に関する問合せでは、人間表現学科、人間行動学科に関するものが17件あり、新学科に対する関心の高さを伺わせるものである。また、教員免許に関する問合せで内容が同じものが多く、そのためよくある質問に掲載することとなった。来年度以降の課題としては、よく問合せのある部署では回答が迅速に準備されるのに対し、それ以外のところでは回答に時間がかかる傾向にあるためその改善が必要である。

（電子情報専門委員会委員長 高橋 真）

3-5-2．就職・広報専門委員会

平成16年度就職・広報専門委員会は、計10回の会議を開催し、本学部の就職及び広報に関する事業を計画、決定、遂行してきた。以下に、広報、就職支援の順で活動の概要を報告する。

1．広報活動

広報活動として主要なものは、次のとおりである。

- (1) 平成17年度版学部案内（和文）の作成を挙げることができる。本学部案内は、平成17年度における学部改組の概要（4学科体制）をいち早く公開するために5,000部作成し、平成16年5月18日から各方面に配布した。また、英語版学部案内も500部作成し、平成16年8月9日から配布を開始した。
- (2) 例年夏季休業中に実施されている高校生への説明会を平成16年8月2日と3日の2日間にわたって開催し、初日に631名、2日目に479名、2日間の合計で1,000名を越す参加者を得ることができた。
- (3) 高校生に対する公開授業については、平成16年6月から12月の間に、5つの高校（兵庫県立芦屋高等学校、兵庫県立星稜高等学校、兵庫県立御影高等学校、兵庫県立兵庫高校、私立開明高等学校）を対象に実施された。のべ公開科目数は33科目、参加者は計264名であった。
- (4) 高校を対象とした出張大学説明会は、計4回を実施した。出張先は、大阪府立茨木高等学校、私立雲雀丘高等学校、大阪府立千里高等学校、大阪府立北千里高等学校であった。
- (5) 高校生を対象とした模擬授業については1科目が実施され、兵庫県立芦屋高等学校からの参加者17名を得た。
- (6) 新聞社など企業主催の学外大学説明会には、計3回の参加を行った。

2．就職支援活動

就職支援活動として主要なものは、次のとおりである。

- (1) 就職支援を目的としたキャリアサポートセミナーを計11回開催した。これらのうちの7回分は、企業の人事担当者等を講師として招いた業界・業種関係の説明会であった。のべ136名の学生が参加した。その他の4回分は、本学部の学生だけを対象にして、就職3年目から5年目の卒業生を講師として招いた小規模特別セミナーであり、のべ26名の学生が参加した。
- (2) キャリア支援を目的とする低学年用セミナーとして、試験的に1年生用セミナーを4回開催

し、のべ 108 名の学生が参加した。2 年生用セミナーは、2 回開催され、のべ 50 名の学生が参加した。

(3) 就職支援のための各種資料等の電子化を試み、平成 16 年 10 月 13 日から本学部の就職関連情報をホームページとして公開した。本ホームページには、従来の学部就職ハンドブックに掲載された就職体験などのコンテンツが掲載されている。また、学生の希望者(約 30 名)に、就職関連情報を掲載した電子メールによるニュースレターを作成し、平成 16 年 10 月から平成 17 年 3 月までに通算 50 号を配信した。

(4) 卒業予定者を対象とした就職進路状況の調査を実施し、本年度は 100%の回収率であった。

3. 本年度のまとめと今後の課題

平成 16 年度は、広報関連の活動については、平成 17 年度からの新学科体制に基づいた学部案内の作成、公開授業、大学説明会の充実などに取り組んできた。また、就職支援関連の活動については、インターンシップ委員会などと緊密に連携しながら、新しいタイプのセミナーを幾つか企画・運営した。就職ガイドブックのホームページへの移行、電子メールによるニュースレターの発行なども一部実現され、学生への便宜を図ることができた。

本専門委員会は、本年度をもって廃止される。今後、新設の広報委員会、キャリアサポートセンターに対して、本専門委員会の業務を円滑に移行していくことが課題である。

(就職・広報専門委員会委員長 稲垣成哲)

3-5-3. 「発達科学部便り」編集委員

1. 本年度の活動状況

(1) 「発達科学部便り」の発行

「発達科学部便り」: 12 号(2004/ 4 /12) ~ 21 号(2005/ 2 /18)の発行

特集・トップ見出し一覧

号 数	発行日	トップ見出し・見出し記事等
第 12 号	2004/ 4/ 8	・特集：発達科学シンポジウム 大阪湾・その水質と埋め立て
第 13 号	2004/ 4/12	・特集：平成 15 年度韓国実地視察報告
第 14 号	2004/ 6/ 7	・特集：国際学术交流（華東師範大学を訪問して） ・特集：シンポ<大阪湾・その水質と埋め立て> 報告
第 15 号	2004/ 6/ 9	・特集：小学校体力調査 ・特集：<長寿の秘けつ・長寿国日本>
第 16 号	2004/ 7/20	・特集：教育法学会第 34 回大会（テーマ：学校安全法要綱案（教育法学会 学校事故問題研究特別委員会要綱案）
第 17 号	2004/ 9/ 6	・特集：附属明石小学校・幼稚園 100 周年記念祝典
第 18 号	2004/10/ 5	・特集：ヒューマン・コミュニティ創成研究センター・社会貢献室開所
第 19 号	2004/11/12	・特集：洲本救援ボランティア報告 ・特集：附属住吉小学校国際交流報告
第 20 号	2005/ 1 /20	・特集：総合人間科学研究科主催 国際シンポジウム 記憶する都市・神戸の街路から新しい人間科学を・

第 21 号	2005/ 2/18	・特集なし (トップ記事：附属明石中学校生徒の受賞 / 震災 10 周年メモリアル学術シンポジウム開催 / 震災復興 10 周年「神戸国際絵画コンペ」入選 / 北京師範大学との交流討論会)
--------	------------	---

- (2) 「発達科学部便り」のホームページ掲載に関する手順・規則等，検討・審議した事項
- ・「発達科学部便り」のホームページ掲載に関する申合せ(平成 16. 7. 21 教授会にて了承)
 - ・学部便りホームページ掲載までの著作権処理・手順等の問題点の検討・審議，
 - ・技術的な作業体制の検討・模索と整備
- (3) 「発達科学部便り」のホームページへの掲載：第 12～16 号(平成 17. 3. 24 現在)
- (4) 委員の交代・引継ぎ並びに著作権上の留意事項への慎重な取扱い姿勢の再確認。

2. 現在検討中の課題等

発行済みの「発達科学部便り」第 17 号～21 号の記事の，ホームページ掲載への許諾申請手続きを進め，ホームページアップデートを進める。著作権上の留意事項への慎重さの再構築。

(「発達科学部便り」編集委員 鈴木幹雄)

3.6. 環境・施設

3-6-1. 学舎検討委員会

本委員会は，発達科学部の土地及び建物等(以下「学舎等」という。)の円滑な運営を図ることを目的として設置され，学舎等の将来項目に関する事項，有効活用及び点検・評価に関する事項，その他学舎等の管理運営に関する事項を審議するものである。今年度の委員は，平川和文(委員長)，蛭名邦禎，梅宮弘光，藤田大輔(平成 16 年 9 月まで)，五味克久(平成 16 年 10 月から)である。

1. 本年度の活動状況

(1) A 棟 1・2 階の改修及び再配置の実施

昨年度教授会で審議・了承された発達支援インスティテュートの設置，学生アメニティスペースの整備，及び学部長室・事務室等の管理部門の一元化整備のための，A 棟 1・2 階の改修工事が実施され，各機能が再配置された。

(2) 人間科学研究センター廃止に伴う E 棟の再配置計画について

平成 17 年度からの学部改組で人間科学研究センターが廃止され，新たに発達支援インスティテュートが設置される。また，発達科学部が 3 学科から 4 学科へ学科改組される。これらの動きに伴い，E 棟の人間科学研究センターの各部屋の再利用について検討した。E 棟再配置の基本的な考え方は次のとおりである。

棟屋上に設置されているエアコンの室外機の騒音・振動音対策の工事を行う。

昨年度からの A 棟の再配置により部屋を明け渡さなければならなかった部屋の獲得を優先する。

学部の次年度の重点項目である学科改組に伴う新学科の充実に向けての部屋の配分を優先する。

2. 次年度以降の課題

神戸大学は本年度から国立大学法人神戸大学と法人化された。発達科学部も，今まで以上に学部の特徴を打ち出さなければならない。そのためにも，学舎の有効利用・効率化，学生へのサー